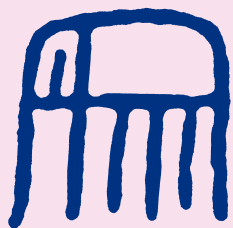


2023.2 NO.76

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



大学作品展 2023.2.8 ~ 12 京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館
コロナの状況により突然変更されることもありますので大学 HP でご確認ください。

京都市立芸術大学移転整備支援 京都芸大同窓会アートオークション2023「Hand On」 開催報告

京都駅東部エリア・崇仁地域で建設中の新キャンパス移転が、いよいよ今年秋に近づいてきました。

来るべき時代の新しい芸術大学を作るという大きな仕事に立ち向かう母校を支援するため、美術/音楽両同窓会は、京都芸大同窓会アートオークション2023「Hand On」を2023年1月上旬に開催いたしました。

未来への希望を伝えるためのタイトルとして、「伝える」「手渡す」「伝達する」といった意味を持つ「Hand On」という言葉を選びました。その言葉に伝えるかのように、同窓会会員319名(組)による440点の多種多様な作品が会場を彩り、大変華やかなオークションとなりました。幅広い年代の作家の作品が一堂に会する展覧会としても、またとない機会となったのではないのでしょうか。会期中は多くの来場者に恵まれ、みなさま思い思いにこのオークションを楽しんでくださったようです。

収益金は、移転整備支援(設備・備品等充実)として大学へ寄付予定です。作品をご出品くださったみなさま、またオークションに参加してくださったみなさまに心より感謝申し上げます。

会期：2023年1月6日(金) - 1月9日(月・祝) 11:00 - 19:00

プレビュー：2023年1月5日(木)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

主催：京都芸大同窓会アートオークション 2023 実行委員会

後援：京都市、京都市立芸術大学、京都市教育委員会、
京都銀行、京都市芸術文化協会、京都商工会議所、
京都デザイン協会

協力：音楽学部同窓会真声会

出品作家：319名(組)

出品作品：440点

入場者数(延べ人数)：1,119名(1月5日のプレビュー含む)

入札件数：1,308件

落札率：98.0%(431/440)

落札総金額：21,508,870円(予定)

平均落札額：49,904 円

京都芸大同窓会アートオークション2023実行委員会

(委員長) 望月重延

(副委員長) 野崎邦雄、鶴田憲次

(事務局長) 藤田瑞穂

(委員) 阿部緑、小山格平、出井豊二、安井友幸、辻喜代治、

東田幸治、人長果月、古川加津夫、松尾恵

(事務局) 開本恭子、伊藤学美

(オブザーバー) 小山田徹、舟瀬伴子

ロゴデザイン：豊永政史(1994年学部、1996年院卒)

イラスト：菊池雅巳(2010年学部、2012年院卒)

Head line

京都芸大同窓会アートオークション2023「Hand On」開催報告	1
京都芸大移転と整備基金	3
2023年度「象の会」役員総会開催予定 7月1日(土)	4
「ありがとう沓掛キャンパス」イベント開催予定	4
京都芸大理事長予定者の選出について	5
上村淳之先生の文化勲章受章と 中井貞次先生の文化功労者選定を祝して	5
新任あいさつ	6

退任あいさつ	6
2023年4月、デザイン科は新体制へ	7
Relay Talk象の会・いろあわせ⑩	8
Tea Cafe「象の店」顛末記	19
学内消息(資料)	10
会員展覧会	10
事務局だより	12
編集後記	12



Hand On

KCUA Alumni Art Auction 2023

撮影：花戸麻衣

<出品作家>

相見節子、青谷紀久代、赤沢嘉則（5代赤沢露石）、茜花、上野真知子、赤松玉女、安芸和美、秋山陽、浅野均、阿部緑、井川健、いけうらあやこ、池田聡子、池田三郎、池田寛美、石田典子、石田真弓、石塚源太、石橋義正、石原友明、出原司、市川陽子、井出照子、伊藤彩、伊藤弘之、伊藤学美、井上俊一、井上隆夫、井上よう子、井隼慶人、井丸典子、隼楠、上住雅恵、上田由美子、潮桂子、潮隆雄、内山政義、永樂而全、大垣早代子、大草肇ム、大河内夏樹、大城国夫、大塚朝子、大西伸明、大野俊明、大野護、大原千尋、大村美玲、大森翠、大矢一成、大山幸子、大矢真弓、小笠美華、岡本秀、岡本尚子、奥田真子、奥田泰江、奥村美佳、小曾根環、小田芽羅、欠田誠、梶山千鶴、片岡れいこ、加藤妙子、門川昭子、金氏徹平、金田恭明、kammy、神谷紅、亀谷彩、亀山玲子、鳥丸由美、ColorfulLab、河合桂、川合敏久、河合美佳、川口凱正、川嶋涉、川田知志、河中明美、川端紘一、川村悦子、神野立生、木岡史、菊池和晃、岸雪絵、木田雅之、木田陽子、北浦雄大、北島哲、北村純子、木村和熙、木村英輝、木村浩、木村美晴、木村友紀、清原遥、日下部雅生、國松万琴、久保田繁雄、蔵田和枝、栗田咲子、栗本夏樹、黒川彰夫、黒沢理菜、黒田富紀子、下條華子、現代美術二等兵、河野裕子、越田帆南、小島知恵子、小島東洋治、小清水漸、児玉靖枝、小林紗世子、小宮容一、小山格平、児山より子、小山田徹、権貴玉、佐川俊浩、笹井史恵、佐々木萌水、佐藤高志雄、佐藤由輝、里の・木のおもちゃ・みのる、佐野賢、澤村はるな、重岡良子、柴田良三、しばたゆり、清水彩瑛、清水剛、清水信行、城愛音、正垣雅子、正司幸代、城野愛子、城野秀紀、紫嵐、身体0ベース運用法、杉本遊美、杉山雅之、鈴木真衣子、鈴木八十二、鈴木結紀子、須賀智子、勢藤明紗子、善住芳枝、染谷聡、高田泉、高野純子、高橋悟、高谷光雄、竹内敦子、竹内三雄、竹下理恵、竹浪達、田島絹、建昌哲、田中栄子、田中佳洋、谷内春子、谷原菜摘子、谷村能子、塚田章、塚本真知子、土谷章雄、椿昇、鶴田憲次、出井豊二、翟建群、唐仁原希、堂東由佳、戸狩うた、徳島美都子、殿南直也、富田マリイ、鳥井雅子、内藤英治、中井佳代子、中井貞次、長岡文子、中桐聡美、中島智恵、中西進、中西雅子、中野庸二、中原浩大、中原史雄、仲摩洋一、中村潤、中村由香、中村隆一、中山玲佳、七代清水六兵衛、奈良平宣子、成山亜衣、西尾安梨沙・森山靖子、西上翔平、西田真人、西久松友花、西久松吉雄、西村涼、新田恭子、二瓶晃、年久久榮、野崎邦雄、橋本哲史、長谷川誠子、長谷川直人、長谷川睦、畑千秋、羽田登喜、羽田登、初田寿、早川裕子、林政隆、林聰江、久門剛史、菱木明香、人長果月、平岡靖弘、ひろいのぶこ、廣田美乃、廣谷育子、副産物産店（矢津吉隆・山田毅）、福田季生、福永朝子、藤井敬子、藤井智美、藤井桃子（花背WARA）、藤井良子、藤野靖子、藤原玲子、古川睦子、北城貴子、堀口敬史、舞原克典、前田晶子、前田朋子、真木智子、鱒淵眞理子、松井亜希子、松井沙都子、松井照太、松井紫朗、松岡勇樹、松岡由紀、松下裕恵、マツムラヤコ、松本誠史、松本静明、松本慎、松元悠、松本もと、松本泰章、マツモトヨーコ、松山淳、間野涼子、三木表延斎、水野收、三橋遵、三橋卓、宮下善爾、宮下英子、宮村長、村上尚美、村上美樹、村田肇一、むらたちひろ、村山順子、望月玉船、森夕香、森岡和世、森口邦彦、森下ヒロ子、森田洋吉、森田りえ子、もりたいよこ、森野彰人、森野泰明、森村泰昌＋赤松玉女、森本岩雄、森本政文、守家美保子、安井友幸、安田麻里、やなぎみわ、山極壽一、山口啓子、山崎俊江、山添耕治、山田修作、山田俊行、山田真実、山出勝治、山中彩、山中晴夫、山西なつ美、山本俊夫、山本真実江、山本容子、山本理恵子、行澤祐子、横内賢太郎、吉浦真琴、吉岡俊直、吉川充、吉田鷹景、吉田孝光、吉田桃子、吉見真帆・梅川侑里恵、若杉聖子、鷺田清一、渡辺智子、渡辺信明、渡辺信喜、王木易

京都芸大移転と整備基金

いよいよ本年秋に迫ったキャンパス移転。新校舎での授業開始日が10月2日に決まり、移転後の最寄り駅となるJR京都駅の中央改札口には移転までの残り日数を表示したカウントダウンボードが登場しました。また、同窓会の皆様により移転整備支援としてアートオークションを開催していただくなど、大学移転の機運は確実に高まってきています。

移転整備工事の最新状況ですが、最も工事が進んでいる鴨川沿いのエリアでは建物がほぼ完成し、各種検査や試運転、一部の外構工事を残すのみとなりました。順調に進めば2月には竣工を迎える予定です。中央に位置するエリアについても、地上5階建て建物の躯体が立ち上がっています。一番最後に完成予定である京都駅に近いエリアでは、地上7階建て建物の鉄骨のほとんどが立ち上がり、新キャンパスの規模感が感じられるようになってきました。また、一部では足場やシートが取り除かれ、建物の外観がご覧いただけるまでになっています。移転予定地付近を歩いてみると、令和3(2021)年5月に始まった移転整備工事が着実に

ゴールに近づいていることを実感できます。

制作機器や楽器の購入・更新など教育研究環境の充実に必要となる費用を募る「移転整備募金」も取組開始から丸2年が経過し、これまでに8億円を超える寄付をいただいております(令和4年12月末時点)。そのうち象の会の皆様からのご寄付は1300万円にも上り(アートオークションを除く)、有難いことに複数回にわたり寄付してくださる方も多数おられます。皆様の温かいご支援に改めて感謝申し上げます次第です。

しかしながら、目標金額の15億円にはまだ道半ばの状況であり、設置団体である京都市の財政状況も依然として厳しいことから、新キャンパスに相応しい、理想的な教育研究環境の実現のためには、なお多額の大学の自己資金が必要となります。募金活動は移転後の令和6(2024)年3月まで継続する予定としており、象の会の皆様には、これまでも多大なるご支援を賜っているところですが、より一層のご支援、ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。(移転準備室)



鴨川沿いのエリア(北側から)



カウントダウンボード(JR京都駅 中央改札口付近)



共有工房 外観



制作室(漆工)



中央のエリア(北側から)



新キャンパス工事現場 全体俯瞰(京都タワーから)



京都駅寄りのエリア(塩小路高倉から)



京都駅寄りのエリア 建物外観(河原町通から)

2023年度「象の会」役員総会開催予定 7月1日(土)

来年度(2023年)の役員総会は、2023年7月1日(土)の午前中に大学構内で開催する予定です。詳細は後日、役員各位にご案内いたします。

また、当日は大学143年目の創立記念日であり、午後から沓掛の地で43年間お世話になった沓掛キャンパスに感謝

するイベント(美術・音楽同窓会主催)の開催を予定しています。

役員幹事の皆様には、出席くださいますようお願いいたします。入れておいてください。

「ありがとう沓掛キャンパス」イベント開催予定



京都芸大の京都駅東地区への移転も本年10月1日と決まり、大学ではそれに向かって準備が着々と進んでいます。

今の沓掛キャンパスが1980年4月に東山今熊野から移転以来、43年が経過し、今秋には1880年(明治30年)の創立以来9回目の引越しが行われます。

歴史を刻んできた京都芸大の沓掛キャンパス。今秋の移転に際し、

“沓掛キャンパスに感謝のありがとうを刻むために”

“暖かく見守っていただいた地域住民の皆様へありがとうを伝えるために”

美術学部同窓会象の会と音楽学部同窓会真声会の両者が主催して感謝のイベント「ありがとう沓掛キャンパス」を企画いたしました。

ぜひとも同窓生の皆様おそろいで「ありがとう沓掛キャンパス」に参加くださいますようお願いしご案内申し上げます。

詳細が決まりましたらホームページでお知らせしますので、ご覧のうえ、参加を希望される方は下記の要領で申込みをお願いします。

詳細を印刷物でご覧になりたい方は、同窓会事務局までご連絡ください。

申込方法

同窓会へE-mail (info@kyogei-ob.jp) またはハガキで必要事項をご記入の上、申込みをしてください。

- ・タイトル「ありがとう沓掛キャンパス」参加申込
- ・必要事項(氏名、卒業/修了年、専攻、〒、住所、電話)
- ・申込メ切 5月31日(水)

「ありがとう沓掛キャンパス」 イベントの概要(今後変更となる場合もあります)

日 時	2023年7月1日(土) 13:00~17:30
場 所	京都芸大(沓掛キャンパス)大学会館とその周辺
参加費	無料(但し、飲食等の経費は自己負担 飲食の会場持ち込みは可能)
参加者	両同窓会会員(沓掛時代に限らず)、現元教職員、洛西地域住民など 参加希望者は申込みが必要です。

- ・当日午後に大学講堂において「kyoto music caravan 2023」が開催されます。
イベント開会式 主催者挨拶、大学挨拶、来賓挨拶、開会ファンファーレ
アトラクション＝学内仮装バンド行列、学生時代サークル活動披露
沓掛キャンパスクイズ大会 など
研究室めぐり ＝当日開放される研究室に限ります。
音楽学部演奏 ＝室内楽四重奏ライブなど
映像で見る沓掛キャンパス43年＝大学会館大スクリーン
学部別同窓生交流のテラス ＝大学会館内
- キッチンカー、ケータリング店などを大学会館周辺に配置
- ・雨天でも決行する予定ですが、プログラムを変更することがあります。

京都芸大理事長予定者の選出について

京都市立芸術大学(総務広報)は、2022年11月14日に次の発表を行いました。

現理事長の任期が令和5年3月31日をもって満了することに伴い、次期理事長の選考手続を執り、学内の投票を経て、理事長選考会議において、現理事長(赤松玉女)を次期理事長予定者に選出しました。

再任の任期は、令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間で、令和5年4月1日付けで京都市長から任命される予定です。

なお、同理事長予定者は、同任期で京都市立芸術大学学長を兼ねることとしております。

< 赤松現理事長のコメント >

京都市立芸術大学は、2023年度の京都市中心部へのキャンパス全面移転を機に、より深く京都の文化や歴史とつながり、開かれた大学として更なる発展と充実を目指しています。

多様な価値の発見や創造に貢献する芸術の研究と、アーティストをはじめ様々な分野で活躍する人材を育てる大学としての役割を担うとともに、新しい地で芸術の力を活かしたキャンパス周辺のまちづくりにも取り組んでまいります。

上村淳之先生の文化勲章受章と 中井貞次先生の文化功労者選定を祝して

昨年(2022年)11月3日、文化の日に京都芸大同窓会象の会の前会長、上村淳之先生(89歳)が文化勲章を受章され、前々同窓会長の中井貞次先生(90歳)が文化功労者に選定されました。実におめでたい事で、内示を聞いた私もすがすがしい高揚感を憶えました。同窓会を代表して心から祝意を表します。

大学と同じく同窓会も文化・芸術の振興発展に寄与する活動を重要な目的にしています。その意味でこの度の慶事は目的を達成された一つの証として同窓生も両先生と一緒に誇りとし、喜びたいと思います。

振り返れば京都芸大が輩出した文化勲章受章者は上村淳之先生で19人目になります。この中には上村先生の御尊父様である上村松篁先生、御祖母様の上村松園先生のお二人が含まれ、三代に渡って文化勲章受章は初めてのことです。

これも本学の長い歴史と少数精鋭教育の賜物であり、上村、中井両先生も卒業後、本学において日本画、染色の分野で教授として後継者の育成に尽力されて参りました。こうした先生方のリレーが本学の校風を育て、新しい芽吹きを促してきたのであり、そうした大学に学んで

きた私たちの喜びと自信に繋がっています。両先生と時を同じくして本学で教鞭を取ってき来た私も先生方のご授章、選定には人一倍喜びを憶えるものです。

振り返れば1970年、全国の大学で「大学紛争」が起り、本学にも波及して大変な時代を経験しました。教員も学生も必死でした。両先生や私もまだ若く学生諸氏と徹底的に議論し、新しい大学の在り方を示した改革案を提示。日夜を問わず、行動力で解決に向け汗を流しました。現在の京都芸大の基盤と組織のスタート地点となりました。両先生にとってもこの紛争体験は大きなインパクトであり、上村先生の「作品は自身を表す最大の武器だ」との考えが生まれた原点と思います。

上村、中井両先生にはこの度の受章、選定をステップとして、なお一層素晴らしい作品を見せていただき、私たちに刺激を与え続けてくださいますよう希望します。今後とも健康の維持に留意いただきまして、益々お元気にお過ごしいただきますよう祈念申し上げます。

2023年1月 京都芸大美術学部同窓会象の会
会長 望月重延

< 上村淳之先生 >

1957年日本画科卒、1959年日本画科専攻科修了、創画会を中心に作家活動、1961年京都市立美術大学教員に採用、美術学部長、副学長を勤め2004年退職、2012～2021年同窓会象の会会長

< 中井貞次先生 >

1954年工芸科染織専攻卒、1956年工芸科染織専攻科修了、1956年京都市立美術大学教員に採用、現代工芸や日展を中心に作家活動、美術学部長を勤め1997年退職、2002～2012年同窓会象の会会長

新任あいさつ (2022年9月)

共通教育教職課程研究室 准教授(専門心理学)

堀田 千絵



© 清水花菜

2022年9月1日に京都市立芸術大学へ着任いたしました。皆様よろしくお願いいたします。私の興味は記憶を調べることにあります。たとえ自分が思い出せないと思っても、しぐさや言い方、喜びや悲しみとしてその時々には様々な姿になって「記憶」はあらわれるので生きている(きた)証そのだと思っています。

「ふとした時に思い出される情景をたどった時、それはいったいいつのことで本当に経験したことなのか…あいまい、なんともいえない。これをあらわしてみよう…。どうかな?」

こういう投げかけと試みをされているアーティストがこれほど芸大に多いことに喜びと感動をおぼえます。

私は現象をとらえるとき、認知心理学という分野からのアプローチ(技)を頻繁にとりいれます。対象は、障害のある人から子ども、そして高齢者まで様々です。1つの技からその対象を見ると、広がりをもって私たちに問いかけてきます。もちろん限界も。いったい記憶とは何なのか…? こうしたテーマを通して、人とは何? 違いとは何だろう? こうしたまなざしを大切に、京都市立芸術大学の過去から未来をさかのぼり、現在が明るくなるよう、私も一員として進んでいきたいと思っています。

皆様、これからご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

退任あいさつ (2023年3月)

共通教育教職課程研究室 教授(専門教育学)

三木 博



思い返しますと、2020年初頭にコロナ禍という予期せぬ事態が発生しまして、当初は一過的なものと思っていたのですが、いつの間にか3年もの長きに渡って続きまして、現在にいたりました。

そのあいだ、学科の授業や会議はこれまでずっと在宅リモート形式のオンラインということで、とうとう対面での授業を再開することは叶いませんでした。定年間近のせいもあって、気分としてはなかばセミ・リタイア的な気分まで来てしまいましたが、とうとう本当のリタイアの日を迎えることになりました。

京都市芸大は、この秋には大学移転という一大事業をひかえておりますが、その直前にこうして大学を去るのは心残りがする一面、ちょうど自身としては杳掛の地で退任を迎えるのは時期としては区切りがよかったかな、とも感じております。

皆様には長年に渡りまして、大変お世話になりましたことを深く感謝いたしますと同時に、新キャンパスでの今後の大学の更なるご発展、お祈りいたしております。

どうも 有り難うございました。

油画専攻研究室 教授(専門絵画)

森口(フィッツジェラルド)サイモン



大枝杳掛に移転したばかりの1982年英国より国費留学生として本学で学びはじめ、1986年以来37年間教職に携わってきました。移転を目前に控えた杳掛学舎と共に退任することは感慨深いです。

外国籍の教員は長らく私一人で、率直に言って、いろいろな点で孤独でもありました。その一方で、西洋出身の教員として、学生には単なる技術だけではなく、常に世界へ眼を向け、実作とそれらが育まれた環境を自分の身体で確かめることを強く促してきました。これまでに卒業生が海外のアーティスト・イン・レジデンスで制作をしたり、海外で活躍する作家に成長していることは、私のこの指導のあり方がいくらかの助け

になったのではないかと思います。また、多くの方々に助けられてRCAとの交換留学制度を30年余前に発足させることができ、インターナショナル・コーディネーターを配置し、国際交流をより活発に取り組む道筋を付けられたのも、外国籍であったことが有効だったのかもしれない。戦争、COVIDと誰もが予測し得なかった混沌とした世界と向き合う今、改めて芸術を通じた国際交流の意義が問われています。

私事ですが、在職中に帰化しました。これで私の長い留学生活を終え、京芸で学んだ芸術を糧に、日本人としてこれからも制作に励んでゆきます。ありがとうございました。

永守 伸年



2016年の着任以来、京都芸大をめぐる思い出は感染症の流行前後でくっきり分かれて、後半は学生にも、同僚にもほとんど会うことができず、ひたすらパソコンのモニターと向かい合っていた気がします。それでも学生とは文章を交わしてきました。ときには自作の写真や動画が送られてきて、その謎かけに答えるように「自分にはこう見える」という印象を言葉に移していくわけです。

そこで心がけていたのは、抽象的な分析と、作家自身の言語の中間を縫うような言葉づかいでした。いつもうまくやれたとは思えませんが、しかし試行を重ねて、人工物にこめられた論理と、作り手の判断を跡づけるための平明な文体が残りました。飛躍を抑えた、冷めた文章が

思いがけず柔軟に働き、対象を正確に把握するために役立つこともあります。

と、そんなことを最近になって卒業生に話してみたところ、一人は「自作の『正確な把握』を期待したことはない」と応じてきました。

「むしろ、自分の制作に並走して、追い越すような言葉であっていい」

それがわたしにできるかどうか、まだ自信はありませんが、いまはこの返答を道しるべとして受け取っています。

七年のあいだ、ありがとうございました。これからは京都芸大の拓く道に並走する、ささやかな側溝(ドブ川)として、みなさんと関わっていくことができれば嬉しいです。

児玉 靖枝



早いもので4年の任期が残すところあとわずかとなりました。これが学生の時の4年間と同じ時間ということが信じがたい速さで過ぎてしまいました。二年目に新型コロナによって日常が奪われ、半期の在宅授業。制作もままならず先の見えない不安のなかでオンライン授業を受ける学生たちに対して、絵画はそのコンセプトや図像のみではなく、画面上の諸々の出来事の中に読むべき言葉があるというのに直接目にするのが叶わないもどかしさと、これからの人と人との関わりの形についてイメージが及ばない自身の無力さを痛感する時間でした。授業をこなすことで精一杯で何も特別なことを実行することができませんでしたが、本学で学んでから40年余りの絵画制作

の中で得たもののうちの何らかか伝えることができたとしたら、それはこれからも受け継がれていくものであることを願っています。

最後の1年間、本学のカリキュラムの中でも最も特徴的な授業、「テーマ演習(抽象のしくみ)」に参加させていただくことができました。一つのテーマについて複数の専攻の学生、教員が協働で研究するこの演習は私自身絵画研究の中で当たり前に認識していた事項に対して異なる視座を与えられる経験でした。来年度大学は学舎移転します。この様な試みがさらに広がって京都の中心から芸術の力を発信し、京都芸大がますます発展していくことをお祈りいたします。

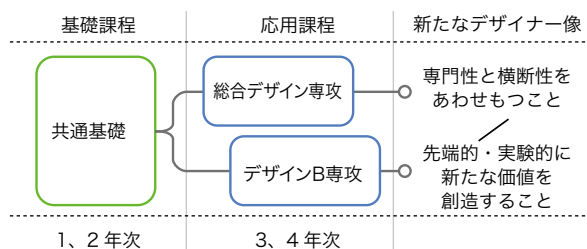
2023年4月、デザイン科は新体制へ

変化する社会の諸問題に柔軟に対応するため、2023年4月よりデザイン科は新しい体制をスタートさせます。これまでの「ビジュアル・デザイン専攻」、「環境デザイン専攻」、「プロダクト・デザイン専攻」を一つに統合し、「総合デザイン専攻」とするとともに、新たな領域である「デザインB専攻」を設置し、2専攻体制に変更します。

近年、様々な領域でデザインの発想法や考え方が注目を集め、デザイナーの役割が地域のコミュニティづくりやオンラインのサービスづくりなど形のないものにまで及び、デザインの社会的意義は根本的に変わってきました。そのようななか、デザイン各分野の専門性だけでなく、柔軟で横断的に活躍するデザイナーが今日の社会にとって必要になってきたと言えます。そして、デザイン教育もこういった時代の変化に対応したものに更新する転換期にきています。現在を生きる私たちは、環境問題をはじめとする様々な社会問題を抱えています。われわれ全人類が解決すべき課題に対して、デザインは何をすべきか。本学では、このことに対して真摯に向き合ってきました。そしてこの度、専門性の協働や横断性が求められる社会の要求に応える形で、既存の3専攻を1専攻に統合する「総合デザイン専攻」と、既存の枠組みや概念を超えてより実験的かつ先端的なアプローチで取り組む専攻「デザインB専攻」を新設し、これら二つの特色ある専攻を並走させることで、変化の激しいこれからの未来社会に備えて、様々な専門や新たな価値を常に取り込むこ

とができる体制を整備し、継続的に新鮮なデザインの教育・研究を実践していきます。

(https://www.kcua.ac.jp/arts/design_renewal/)



総合デザイン専攻

これまでのデザイン科3専攻を一つの専攻に集約し、各領域の専門を深く研鑽するカリキュラムとともに領域を横断する授業を併せて行う専攻。基礎課程から段階を追って高い表現力を獲得し、社会に潜在する問題を発見・解決することができる高度な能力を持ったデザイナーの育成を目指します。

デザインB専攻

「B」は、「生成変化」を意味する“Becoming”の頭文字。多角的で実験的なアプローチを試行し、新たな価値を創造する新専攻。自らの学びを主体的に構築しながら、社会の未知なる課題を発見し、優れた解決方法をデザインできる人材の育成を目指します。

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

こにし けいこ 小西 景子

2016年（平28）版画専攻卒業
2018年（平30）絵画専攻（版画）修了
バレエ部

「転換期」

版画専攻を修了して間もなく、縁があって同専攻の非常勤嘱託職員として働くこととなり、私が大学という学舎から環境を変えたのは、わずか1年前のこと。

現在は本屋に併設したギャラリーでアルバイトスタッフとして働きながら、作品制作を行っています。初年度ということもあり、生活の優先順位の決定がままならず、もどかしい毎日を送っています。アルバイトといえど自分を食わせていくだけの給料をもらいながら作品を作るのはモチベーションと時間を大きく削がれる要因になり、作品制作に向き合う時間は無くなって、作家と名乗るには、かなり苦しい一年となりました。

しかし、新たな職場で出会う人たちの価値観に触れ、否が応でも大きく意識を変えた年でもありました。生活形態や培ってきた常識もそれぞれ違い、自分自身がこれまでいかに狭い範囲に向けて表現を見せようとしていたか、何となくですが分かりました。また、自分がコンスタントに作品を作れていない中で、たくさん発表の機会をもっている友人の展覧会を訪れると、そこには鍛錬の行き届いた作品が並んでおり、作品制作に向き合う時間の大切さをこれまで以上に実感しました。

色々と歯痒い近況報告ではありますが、今のところ大きく舵を切るつもりはなく、自分のペースで生活も制作も進めていきます。

最後に、2022年に出版された彩瀬まるさんの小説『かんむり』の装画に作品が起用されましたので写真を添付します。



次号に紹介される方は、
にしむら りょう
西村 涼さん
2018年（平30）版画修了

はしもと しょうじ 橋本 正次

1973年（昭48）日本画科専攻卒業



「憧」



幼い頃、家の近くに浄土真宗の西本願寺がありました。境内にそびえ立つイチョウの木は樹齢400年ともいわれています。その木の下で周囲を眺めるのが好きでした。広々とした境内は静かで風の音と草の香があたたかく私を包んでくれました。その時の感覚が今も残っています。

大学を卒業して16年間は染色の仕事に従事していましたが、平成元年、心機一転、スケッチによく通っていた京北美山町に近い京丹波町に移住しました。自然が豊かで広い仕事場が使える環境が欲しかった為です。

平成3年ごろから綾部、福知山を中心に絵画教室を開き、楽しく個性を尊重した指導を心がけています。

先が見えない現代において絵を描ける時間が持てるという事、それによって心のやすらぎが得られる事に感謝しております。

幼い頃のにごりのない感性を今でも持っていてそれを絵に表現できているのだろうかと思問自答しながら日々制作に励んでおります。

絵を描き続ける事は私にとっては永遠の目標であり、あこがれであります。



次号に紹介される方は、
やまおか ひろかず
山岡 廣和さん
1972年（昭47）日本画科卒業

Tea Cafe「象の店」顛末記

芸大祭で同窓会「象の店」を担当してきました76年デザイン卒の小山です。その芸大祭もコロナの影響を受け2019年から21年まで3年間対面で行われる事はありませんでした。しかし2022年は大学にて行われる事が決まり同窓会としても「象の店」を出店することになりました。しかしこの間大学を取り巻く環境や状況が大きく変化し、以前のように飲酒を伴うお店や深夜遅くまでの開催等々が出来なくなってきたのです。

私は、居酒屋としての「象の店」を手伝ってきましたので、今更飲酒が出来ない「象の店」では私の出番は無いと思っていましたが、代表幹事の野崎様より「なんとか計画してくれないか」との要請を受け検討させて頂いたのが「TeaCafe象の店」です。

同窓生が集う場所が芸大祭には必要だとの思いから居酒屋ではなくカフェを開くことになりましたが、カフェにどれだけの同窓生が来て頂けるか不安の決断でした。

なぜCoffeeではなくTeaなのか？実は私はコーヒーが飲めないのです(全く飲めないという事はありませんが)どちらかというと紅茶派です。また私の後輩に藤原君(78年デザイン卒)という卒業生がおりまして紅茶(特に日本産の紅茶)に造詣が深く、彼の力を借り今回の模擬店を計画するに至りま

した。過去の居酒屋では300人程度の同窓生に来店いただいておりますが、先ほども述べましたようにカフェにどれだけの卒業生が来て頂けるのか？食材や食器等々の手配がありますので、その辺も心配でした。そこで以前の1/3の程度(なんの根拠もないのですが)を手配すれば良いのではと判断しました。しかし結果は3日間で200人を超える同窓生・芸大職員の方々にお出で頂き本当に感謝いたしております。以前に比較して売上は3割ほど減少しましたが、居酒屋に比べ初期費用(食材や食器など)が抑えられましたので同窓会の負担金も同じように3割ほど抑える事が出来ました。

当初危惧いたしておりました集客やまた天候にも恵まれ予想以上の結果を出す事が出来たと思っております。これもご来店頂きました同窓生の皆様、お手伝い頂きました役員の皆様のお陰であると心から感謝いたしております。ありがとうございました。

22年度が杳掛での最後の芸大祭となります。23年10月1日に京都駅東に移転いたしますので今後、芸大祭がどうなるか？まだわかりませんが可能な限り「象の店」は続けたいと思います。

同窓生の皆様、今後とも「象の店」をよろしくお願い申し上げます。
(象の店マスター 小山格平)

<収支決算報告>

(単位：円)

収入 187,467 紅茶など売上げ 84,950 同窓会負担金 102,517

支出 187,467 出店費 11,130、食器 12,500、食材、飲み物 64,440、人件費 65,000 会議費 24,540、雑費 9,857



学内消息（資料）

(2022年1月～12月)

1月4日～3月21日	芸術資料館収蔵品活用展 mamoru『おそらくこれは展示ではない（としたら、何だ？）』（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
1月15日～1月16日	2022年度大学入学共通テスト
2月9日～2月13日	2021年度作品展（大学構内・京都市京セラ美術館）
2月25日～2月26日	2022年度美術学部入学試験
3月3日～3月4日	2022年度大学院美術研究科博士（後期）課程入学試験
3月8日	2022年度美術学部・大学院美術研究科博士（後期）課程合格発表
3月23日	2021年度卒業式・学位記授与式
3月31日	野田涼美特任教授、上田順平特任講師退任
4月1日	上野真知子特任教授着任
4月8日	2022年度入学式
4月9日～5月15日	芸術資料館収蔵品展 第1期「さよなら杏掛キャンパス展 Part 1」
4月16日～6月26日	京芸 transmit program 2022（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
5月21日～6月26日	芸術資料館収蔵品展 第2期「語る絵画－絵巻と襖絵」
7月1日	創立記念日
7月2日～8月7日	芸術資料館収蔵品展 第3期「さよなら杏掛キャンパス展 Part 2」
7月11日～7月15日	第33回留学生展
7月30日～8月28日	2022年度申請展「Positionalities」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA）
7月30日～8月28日	2022年度申請展「測鉛をのろす」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA）
8月7日～8月14日	美術学部オープンキャンパス（WEB上）
9月1日	堀田千絵准教授着任
9月12日～11月16日	2023年度大学院美術研究科修士課程入学試験
9月17日～10月23日	芸術資料館収蔵品展 第4期「像と影－人のかたちを描く」
9月17日～11月6日	芸術資料館収蔵品活用展「うつしのまなざし」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
10月22日～10月30日	京都駅ビル芸術祭 2022 ～中継地点 from 京芸～（JR 京都駅）
10月29日～12月4日	芸術資料館収蔵品展 第5期「うつし展－京都御所小御所襖絵と本館模写資料」
10月31日～11月2日	京都市立芸術大学芸大祭 2022
11月19日～12月11日	2022年度申請展「LICHT: Breath of Light」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA）
11月19日～12月11日	2022年度申請展「Stone Letter Project #5－圧縮と解凍」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA）
11月24日	2023年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月13日～12月19日	第34回留学生展

会員展覧会

(2022年1月～2023年2月) ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展		
2/18～5/14	田島征彦展	兵庫県公館
3/2～27	小曾根 環 ―flowering―	BBプラザ美術館
3/15～16 3/15～20	＝記憶＝ 伊砂利彦展	"京都市国際交流会館kokoka アートギャラリー博宝堂"
4/21～27	上住雅恵 個展 New Yorkシリーズより	銀座 創英ギャラリー
5/14～22	水野 牧 個展 こどもごころ	GALLERY HEPTAGON
6/7～12	吉田真紀子展(銅版画・ドローイング)	ギャラリー ブチボワン
6/14～26	たじまゆきひこ展 絵本原画と型絵染	ギャラリー・ヒルゲート
6/15～21	第11回 井上俊一作陶展	大丸福岡天神店
6/17～19	片山晴比古 漆 パネル展	阪急西宮ギャラリー
6/28～7/10	大森 翠 遺作展	ギャラリー Create 洛
7/4～16	大城国夫展	ギャラリー白3
7/19～24	前川秀治 銅版画展	ギャラリー・ヒルゲート
8/2～7	谷内 春子 展 ―Longing for a prism―	ギャラリー恵風
8/23～28	林 寿朗 個展	ギャラリー Create 洛
9/1～10	井上よう子展 ―The way in blue―	ギャラリー・枝香庵
9/14～18	奥田 迪 展 ～FESTIVAL IV～	WEスペース下鴨
9/24～10/8	町田澤映子 個展	GALLERY TOMO
9/30～10/23	高谷光雄展 寓意と真実	染・清流館
10/7～16	林 寿朗 ～密かな息吹～	アートデアート・ビュー
10/8～14	荒瀬隆造 油彩画展	御池画廊



①



②



③



④



⑤



⑥

10/12～19	河野裕子個展 「アーチ門の街より」	art Truth	⑦
10/20～30	國松 万琴 展 ―Verde 緑の世界―	ギャラリー恵風	
10/24～29	長谷川 睦 展 草いきれと風の線	ギャラリー白3	⑧
11/5～27	伊藤学美 個展	京都・アートゾーン神楽岡	
11/1～20	山田俊之展 没頭絵画／夢	滋賀県立美術館	⑨
11/12～23	井上よう子展 ―静かに時を見つめて―	ギャラリー島田	
11/14～19	渡辺智子 展「たどり着く庭」	ギャラリー白	
11/15～27	森岡和世 出版記念小品展	h20	
11/23～12/5	宮本 佳美 展 Way to trace	日本橋三越本店	⑩
11/28～12/10	小曾根 環 展 ―botanical―	ギャラリー白	⑪
11/29～12/4	河合美和展	トキ・アーツスペース	⑫
12/6～18	田中直子 水の森・芦生	ギャラリー Create 洛	
12/20～25	大村美玲 日本画展 天の國から	ギャラリー ハ坂茶閑	⑬
2023/1/14～19	金井良輔展 n.60 じよもなま	TOR GALLERY	
2/24～29	仲摩 洋一 展 ―イロ カタチ ユラギー	ギャラリー恵風	



⑥



⑦



⑨



⑧



⑩

会員グループ展			
1/25～30	第60回 京都銅版画協会展(前川秀治 他)	京都府立文化芸術会館	⑭
3/21～27	第36回 象展(同窓生有志)	ギャラリーくぼた	⑮
4/18～4/30	いきづく空間 ―恋文―(長谷川睦 他)	ギャラリー白	⑯
5/3～8	2022滋賀双線美術館(京都芸大美術教育研究会滋賀支部会員有志)	滋賀県立美術館	
5/21～29	第11回 13人13色展(1978年卒業生有志)	知恩院 和順会館	⑰
5/28～6/21	特別企画展2022「CREWS」(小曾根環 他)	ギャラリー島田	⑱
7/26～31	第44回 Q人の作品展(宇井恭子 奥田正子 奥田迪 貴志早苗 永谷正二 吉田恵美子)	京都府立文化芸術会館	
8/22～9/3	PAINTERLINESS 2022(河合美和 善住芳枝 真木智子 渡辺信明)	ギャラリー白	
8/23～28	第37回 反核・平和のための小品展(落合峯子 他)	Gallery Take two	⑲
8/23～28	Ikko FUJIWARA with old Friends(林寿朗 他)	ギャラリー Create 洛	
9/20～25	双線美術館(京都芸大美術教育研究会京都支部会員有志)	ギャラリー 吉象堂	⑳
10/5～16	第9回 21世紀関西女性絵画展(小曾根環 河合美和 他)	兵庫県立美術館	㉑
10/7～29	福本潮子 横溝美由紀 二人展 In Between(福本潮子 横溝美由紀)	桃青京都ギャラリー	㉒
11/4～26	福本潮子 横溝美由紀 二人展 In Between(福本潮子 横溝美由紀)	桃青京都ギャラリー	
10/25～30(東京展)	第76回 新匠工芸展(京都芸大同窓生 他)	東京都美術館、京都市京セラ美術館	㉓
11/2～6(京都展)	第76回 新匠工芸展(京都芸大同窓生 他)	東京都美術館、京都市京セラ美術館	
11/15～20	京都芸大 工芸三人展 ―織 陶 漆―(大住由季、國松万琴、栗本夏樹)	生活あーと空間 ばるあーと	
11/19～12/11	LICHT breath of light(砥綿正之 松本泰章)	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA	㉔
2023/1/8～14	大阪双線美術小品展(京都芸大美術教育研究会大阪支部会員有志)	大阪現代画廊・現代クラフトギャラリー	
1/24～29	京都府市立中学高等学校美術工芸教育研究会 会員作品展2023(京都芸大同窓生 他)	ギャラリー中井	㉕
2/28～3/5	石田眞弓&田島亮一 二人展(石田眞弓 他)	ギャラリー ヒルゲート	㉖



⑬



⑱



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



㉑



㉒



㉓



㉔



㉕



㉖



㉗

●おめでとうございます

- ・2022年11月3日、上村淳之先生は文化勲章を受章されました。
- ・同日、中井貞次先生は文化功労者に選定されました。

- 多くの同窓生の方々のご協力を得て、お正月早々に開催した「京都芸大同窓会アートオークション2023」は、予想を上回る入札金額で大成功に終わりました。ありがとうございました。概要は本文記事を御覧ください。

- 今年度の最後を飾る「芸大作品展」は、2月8日(水)～12日(日)に京都京セラ美術館と本学を会場に開催されます。沓掛キャンパスでの開催は、これが最後になりますので是非とも沓掛へもお運びください。

- 本年4月の新入生から、入学時に同窓会入会金(15,000円)に加え、終身会費(30,000円)を合わせた45,000円の納付をお願いすることになっています。既に卒業された方の会費は年1,000円の制度が継続しますが、振替手数料が高くなって会費の実収入が減少しています。できるだけ終身会費への切り替えをお願い申し上げます。

- 本会報(76号)は、経費節約から会費納入者だけにお届けする号になっていますが、お知らせする内容が多いので、全員にお届けします。

次の場合は、事務局までご連絡ください

●同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

●展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。本ページ上記に記載のゆうちょ銀行の口座宛てに振り込んでいただくこともできます。

●満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

●氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

編集後記

- 移転の年、令和5年が幕を開けました。
- 昨年は長期化するコロナウイルス感染症に加え、同じく終わりの見えないロシアのウクライナ侵略により、経済、安全保障、健康といった社会生活に関わる多くの分野において様々な影響を受けた1年となりました。
- そのような中、昨年は沓掛キャンパスでの最後の芸大祭が久しぶりに対面で実施され、紅葉の美しいキャンパスは多くの来場者を迎え、中には懐かしそうにキャンパスを見て回る卒業生の姿も見受けられました。
- 今年は移転整備支援事業である「アートオークション2023 Hand On」の開催から同窓会の活動が始まりました。同窓生の皆さんや学内の先生方、音楽学部同窓会、ギャラリー@KCUAなど多くの方々より多大なるご支援、ご協力をいただきまして、無事に終えることができました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

- 来たる7月1日(土)の創立記念日には両学部主催で『ありがとう沓掛キャンパス』のイベントを実施する予定です。移転前の学び舎にどうぞお越し下さい。
- 世界が大きく変動する中、大学も新天地で新たな一步を踏み出します。京都、さらに日本のみならず、世界に冠する京都市立芸術大学へと発展して欲しいと願っています。また、地域に開かれた大学として、大学、同窓会共に優れた人材を生かしたシンポジウムや講座、研究会などの開催も望まれます。
- 今年は卯年、本年が大学にとり、そして同窓生の皆様にとりまして大きく飛躍し、実り多い一年となりますことをお祈りしております。コロナも第8波となり、再び感染の波が押し寄せています。皆様、どうぞご自愛下さい。
- 本報76号発刊にあたり、ご投稿、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。引き続き、皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

(同窓会報編集委員長：阿部 緑)